

音楽教育関係誌の掲載記事にみられるアメリカの音楽教育の動向

—1921年～1929年の *Music Supervisors' Journal* に着目して—

山 辺 未 希

(本講座大学院博士課程前期在学)

Trends in American Music Education Based on Articles Published by Music Education Journals: Investigation of *Music Supervisors' Journal* from 1921 to 1929

Miki YAMABE

Abstract

In the United States, due to the maturation of the musical culture at the turn of the century, many departments of singing transitioned into more comprehensive music departments. Many studies of music education were carried out during the transition period from singing departments to music departments, and various claims were made in music educational journals. Thus, it could be valuable to analyze music education journals published during this transition period to clarify the philosophy underlying the establishment of music departments. The current study focused on the *Music Supervisors' Journal*, which was a music education journal published before the formation of music departments. The content of the journal was categorized into three categories: (1) reporting on the content of the meeting of Music Supervisors' National Conference; (2) posted advertisements; and (3) articles by people involved in music education. In this research, I examined the titles of articles by people involved in music education and the types of articles that tended to be published in the journals at the time. This analysis was used to examine trends in music education in the United States at the time. The results revealed that, from 1921 to 1929, there was a tendency to publish many articles, tests, and measurements in music education. In addition, there was a department for each field, including singing, instrumental music and music appreciation, and related articles were published on a continuous basis.

I 研究の背景・目的・方法

アメリカ合衆国において、学校の教科として音楽が教えられるようになったのは、19世紀初頭である。L.メーソンの尽力により、1838年に初めて公立初等学校に唱歌科が導入された。その後、1893年の全米教育協会 (NEA) 15人委員会において、唱歌科は必須科目として位置付けられ、全国の初等学校で教授されるように勧告がなされた。委員会においては、唱歌科の時間配分は8年間で週に60分とされた。

しかし、世紀転換期頃から、唱歌科とアメリカ社会における音楽文化の間には性格上の差が生じるようになった。荒巻 (2001) は、「この時代にアメリカ社会における音楽の性格は、日常的なものから演奏会場で聴取されるべき芸術へと変容していった。このようにアメリカ社会が音楽的に成熟するにつれて、社会における音楽文化と学校における唱歌教育との間に大きな開きができた」と述べている (pp.45-46)。唱歌科が歌唱教育に特化したものであった一方で、音楽文化は蓄音機の発明や各都市でのプロオーケストラ設立等により、日常的なものから演奏会場で聴取されるべき芸術へと変容していったのである。

荒巻 (2001) によると、音楽文化の質的な移り変わりを受けて、学校教育では、音楽文化を支える芸術の享受者、すなわち鑑賞者の育成が求められるようになった。そこで、当時の音楽文化に適った学校教育

を行うことができるよう、音楽科の設立を目的とする音楽科教育運動が行われるようになり、数多くの研究や実践がなされた。音楽科教育運動では、初等学校、中等学校において一貫した音楽科教育を成立させることが目指された。荒巻（2001）は、「運動を結実させるためには、1）新しい教科の理念と方法を明らかにするとともに、2）それをもとに実験的に実践し、そのカリキュラム編成や授業を実施してみせる必要があった。そして、3）それらを基に教科書と教師用教科書を開発することによって、新しい教科を広く一般学校に普及させていかなければならなかった。そして、4）こうした活動を通して、学校教育関係者に音楽科教育の意義と実施可能性、実績を示し、教科としての開設を認めさせなければならなかった」と述べている（pp.45-46）。音楽科教育運動を経て、音楽科は、中等学校では1917年のNEA中等教育改造審議会音楽科委員会報告を経て、初等学校では1921年のMSNC教育委員会報告を経て成立した。

アメリカ合衆国の音楽科成立期に関する主な先行研究には、Tellstrom（1984）、荒巻（2001）等がある。また、Freer（2015）は音楽科成立期に創刊された音楽教育関係誌 *Music Educators Journal* に着目し、100年間のうちの掲載内容を検討した。しかし、音楽科成立期に特化し、音楽教育関係誌 *Music Supervisors' Journal* に着目した研究はない。そこで本研究では、唱歌科から音楽科への過渡期に発行された音楽教育関係誌 *Music Supervisors' Journal* の掲載内容を検討することによって、当時のアメリカ合衆国の音楽教育の動向を明らかにすることを目的とする。当時は、音楽科の設立に向けての主張や論議が活発になった為、数多くの音楽教育関係誌が発行された。このことから、当時発行された音楽教育関係誌には唱歌科から音楽科への過渡期の音楽教育の動向が表れていることが推察される。当時の出来事等を反映している雑誌に着目することにより、動向に関してより一層詳らかな示唆を得たい。

1914年にNational Conference of Music Supervisors（Music Supervisors' National Conference）は、音楽教育関係誌 *Music Supervisors' Bulletin* を創刊した。*Music Supervisors' Bulletin* は、翌年の1915年には *Music Supervisors' Journal* へと名称が変更された。その後、1934年には *Music Educators Journal* へと再度名称が変更され、現在も四半期に一度刊行されている。刊行期間の長さからも、アメリカ音楽教育界における当該雑誌の役割は極めて重要であったことがわかる。Freer（2015）は、「*Music Educators Journal* は音楽教育の業界で最も古くから継続して出版されている雑誌であり、あらゆる音楽教育出版物の中でも世界最大の読者数へと成長した」と述べている（p.111）。*Music Supervisors' Journal* のアメリカ音楽教育界における役割の重要性を認識した上で、掲載内容の考察を行うことによって内実を明確化することは、当時のアメリカ音楽教育界で重要視されていた事項を明らかにする上で有効である。

当該雑誌の掲載内容は凡そ3つに分類することができる。①全米音楽指導主事大会の内容報告、②音楽教育に関連する教材やサービス等の広告、③音楽教育関係者による記事、である。筆者はこれまでに、*Music Supervisors' Bulletin* が創刊された1914年から初等学校と中等学校において音楽科が成立した1921年までの7年間に発行された当該雑誌を、3つの内容に分類して考察した（山辺 2018a, 2018b, 2018c）。上記①②③の3つに分類した掲載内容を考察したことにより、掲載内容における2つの傾向が明らかになった。第一に、器楽や鑑賞等に関する記事が増加したこと、第二に、音楽や音楽教育や教師の在り方を問うようなタイトルやトピックやテーマが増加したことである。7年間の掲載内容を考察したことにより、教科の内容として歌唱だけではなく器楽や鑑賞の学習の充実が図られるようになった傾向と、学校での音楽教育の内容を充実させる一方で、音楽を教えることの価値や必要性が考えられていた傾向が推察された。

今回の研究では、音楽科が成立した1921年から1929年までの8年間の当該雑誌に掲載されている音楽教育関係者による記事のタイトルを検討することによって、当時のアメリカ合衆国の音楽教育の動向の一端を考察する。

II 音楽科成立以前の音楽教育関係者による記事

世紀転換期のアメリカ合衆国では、音楽文化の変容がみられた。市民を取り巻く音楽環境にも変化が生じ、結果的に人々と音楽の付き合い方が変わったのである。荒巻（2001）は、「世紀転換期、蓄音器が発明され、オーケストラが全国の各都市で組織され、T.トーマスやW.ダームロッシュらによって啓蒙的音楽活動が全国各地で繰り広げられた。また、E.マクドゥエル、H.パーカー、G.チャドウィックというアメリカを越えて認められる作曲家を輩出するようになった。この時代にアメリカ社会における音楽の性格は、日

常的なものから演奏会場で聴取されるべき芸術へと変容していった。このようにアメリカ社会が音楽的に成熟するにつれて、社会における音楽文化と学校における唱歌教育との間に大きな開きができた」と述べている (pp.45-46)。これらのことが、音楽科設立の一因となった。

当該雑誌では、全米音楽指導主事大会に関する記事や掲載広告の他には、音楽教育関係者から寄せられた記事が掲載されていた。しかし、記事のほとんどは、雑誌を作成していた組織である National Conference of Music Supervisors を褒め称える文章や組織役員の挨拶文であった。音楽教育に関するトピックを扱っていた記事のみに着目した結果、歌唱に関する記事よりも、器楽や鑑賞に関する記事の方が多く、指導方法についての主張が多くみられた。また、1916年頃から「才能」に関する記事が増えたこと、更には、音楽の価値や学校の中での音楽の必要性に関する記事が徐々に増加した。これらのことから、音楽科設立に向けて音楽との関わり方など、音楽を教える上での根本的な事柄が取り扱われていたことがわかった (山辺 2018c)。

Ⅲ 音楽科成立以後の音楽教育関係者による記事

表1は、1921年から1929年の *Music Supervisors' Journal* における掲載記事のタイトルを一覧表にしたものである。ただし、National Conference of Music Supervisors 等の組織の運営に関する記事や、組織関係者の挨拶文等は含めていない。網掛したタイトルは、2回以上掲載された記事のタイトルである。

表1 掲載記事タイトルの一覧表

1921年10月
公立高校の器楽は結果によって正当化されるのか?
1921年12月
教育における音楽
公立高校の器楽は結果によって正当化されるのか?
1922年2月
教育評議会
本と音楽の批評
伝記に関する重要な内容
学校のオーケストラ部門
1922年3月
本と音楽の批評
教育における音楽の精神
学校のオーケストラ部門
1922年4月
リッチモンド高校
指導主事の本棚
本と音楽の批評
学校のオーケストラ部門
1922年10月
教育的測定の性質と機能
本と音楽の批評
器楽部門
オーケストラの資料
休暇のインスピレーション
1922年12月

教育的測定の性質と機能
小学校の少年グリークラブ
器楽部門
器楽の活動に関する委員会の仕事におけるサービスの機会
本と音楽の批評
彼らの選択によって示される歌の価値
コミュニティにとって価値のある公立学校のピアノの授業
1923年2月
社会奉仕と学校音楽
器楽部門
器楽の教師のトレーニング
本と音楽の批評
公立学校での音楽教授の効率化
教育的測定の性質と機能
1923年3月
不可欠なものとしての音楽
歌が得意な学生とその被害者
本と音楽の批評
教育的測定の性質と機能
1923年5月
経験のある学校
いくつかの質問
器楽部門
器楽の活動に関する委員会の仕事におけるサービスの機会
集団の音楽部門
人の歌に関する委員会の活動

本と音楽の批評
1923年10月
アメリカ合衆国における公立学校の音楽の進化 南北戦争以前のアメリカ合衆国の公立学校の音楽
音楽の精神：指導主事の育成
本と音楽の批評
器楽部門
来年の計画
国の音楽教育のプログラム
楽譜を読むこと
1923年12月
アメリカ合衆国における公立学校の音楽の進化 南北戦争から1900年まで
音楽のコンテストのアイデア
器楽部門
公立学校の器楽の責任者
本と音楽の批評
教師の合唱団
インディアナポリスの教師の合唱団
集団の音楽部門
ニューヨークの高校のオーケストラのプラン
1924年2月
アメリカ合衆国における公立学校の音楽の進化 20世紀 - 歌うことの復活
学校の音楽教育の中の素晴らしい意味
器楽部門
全国スクールバンドコンテスト
公立学校のシンフォニーオーケストラ
シンフォニーオーケストラと音楽鑑賞
集団の音楽部門
公立学校の音楽におけるいくつかの心理学的側面
1924年3月
アメリカ合衆国における公立学校の音楽の進化 高校の音楽の進化
個人の音楽学習のための高校の履修証明の授与に関する調査
音楽鑑賞 - 聴き手の教育
合唱とオーケストラに関する会議
フィリピンの民族音楽
学校のシンフォニーオーケストラ
現代音楽とは？
器楽部門
器楽の教師のトレーニング
本と音楽の批評
1924年5月

「科学的なテストと測定の音楽への適用」
器楽部門
ウインドバンドの音楽的可能性
本と音楽の批評
全ての子どもへの音楽
1924年10月
進歩した公立学校の器楽指導
指導主事の本棚
テストと測定部門
本と音楽の批評
高校の活動としてのオラトリオの発展
初等教育の方法に関するいくつかの意見
中学校の音楽
1924年12月
音楽の人間性への意味
倫理と実践の規範
学校のシンフォニーオーケストラ
テストと測定部門
テストと音楽的成果
器楽部門
音楽科の声乐と器楽の活動の調整
本と音楽の批評
指導主事の本棚
1925年2月
新しい教育
中西部の高校のコンテスト
テストと測定部門
器楽部門
州立及び国立の高校とグラマースクールのバンドコンテスト - 1925
本と音楽の批評
1925年3月
地域ごとの農村音楽の組織化
テストと測定部門
HILLEBRANDの視唱コンテスト
讚美歌の中の芸術
本と音楽の批評
器楽部門
公立学校と外部の音楽的関心
中学校に関する疑問
1925年5月
テストと測定部門
音楽教育のテストと測定
音楽家にとって役立つ販売技術

音楽を教えるビジネス
器楽部門
器楽に関する委員会の第3回年次報告
本と音楽の批評
いくつかのサマースクール
1925年10月
集団のボイストレーニング
テストと測定部門
オハイオ州のクリーブランドの学校の音楽鑑賞
山間のバンドコンテスト
コンテスト
器楽部門
サクソフォンの認識の懇願
本と音楽の批評
移動ド vs. 固定ド
1925年12月
音楽鑑賞における視覚の影響
芸術の統合における実験
テストと測定部門
集団における視唱の測定に関する研究
デトロイトの中学校における音楽鑑賞
器楽部門
州と国のバンドコンテスト
本と音楽の批評
1926年2月
ラジオと音楽
テストと測定部門
音楽における科学的なテスト
器楽部門
シンフォニーバンド
全国の学校のオーケストラ
本と音楽の批評
1926年3月
全国のオーケストラにおけるプランの完成
高校における主要教科としての音楽
テストと測定部門
東部の学校の音楽におけるテストの使用に関する報告
器楽部門
器楽教育のいくつかの狙い
本と音楽の批評
1926年5月
テストと測定部門
教育における科学的な動向
器楽部門

回想
全国の高校のオーケストラ
サマースクール
本と音楽の批評
1926年10月
中学校の音楽のプログラムといくつかの問題
早期の監督者の経験
テストと測定部門
ドリルとテストのための案
器楽部門
その他の全国の高校のオーケストラ
本と音楽の批評
1926年12月
より多くのコンテストを行う
早期の監督者の経験
テストと測定部門
音楽教育におけるテストと測定の批判的な意見
器楽部門
指導主事のミーティングの為に国立オーケストラ
バンドの演目の調査
本と音楽の批評
1927年2月
学校の指導主事の観点からの公立学校音楽のいくつかの立場
州の合唱コンテスト
職業上の初期の出来事
テストと測定部門
音楽の教材における最近の発展
器楽部門
指導主事のミーティングにおける音楽プログラム
本と音楽の批評
1927年3月
慎重さの変化
テストと測定部門
客観的なテストによって明らかにされた音楽教育の現状
器楽部門
1つのアイデア
本と音楽の批評
1927年5月
テストと測定に関する調査
音楽と THE SACRED SEVEN
サマーキャンプ
本と音楽の批評
1927年10月
人間性への音楽の意味

100年の混乱
音楽指導主事になる意味
器楽部門
声楽部門
テストと測定部門
音楽教育におけるテストや測定から何を期待できるのか？
本と音楽の批評
1927年12月
シューベルトの没後100年
音楽における創造表現
音楽鑑賞
農村の集団における音楽
器楽部門
シカゴの高校のオーケストラ
声楽部門
高校の合唱
テストと測定部門
なぜこんなにも面倒なのか
本と音楽の批評
1927年2月
学校音楽
反鑑賞協会
器楽部門
全国のオーケストラのプログラムの変更
声楽部門
第一の高校のコーラス
テストと測定部門
譜読み見おける目の動きの撮影に関する実験的研究
本と音楽の批評
1928年3月
常識としての音楽鑑賞
休憩時間のための音楽
器楽部門
声楽部門
テストと測定部門
テスト
本と音楽の批評
1928年5月
教科の専門家と一般的な管理者
音楽教育の目的
ジュニアハイスクールとシニアハイスクールの信用供与
精神障害のある子どものための音楽
知能の発育の遅い子どもの治療のための音楽
器楽部門

クラスのピアノ教育の価値と危険
声楽部門
声楽のクラス指導
テストと測定部門
音楽教育の損失
本と音楽の批評
音楽の大学進学要件と大学進学コース
1928年10月
イギリスとアメリカの音楽教育者が独自のミーティングを計画
中学校
中学校の音楽
音楽鑑賞
音と音楽
声楽部門
器楽部門
テストと測定部門
音楽的才能とネグロ
本と音楽の批評
1928年12月
学校の管理者と音楽プログラム
大人のための音楽と子どものための音楽
ナショナルミュージックスタディ
音楽鑑賞部門
カンザスの子どものコンサート
声楽部門
器楽部門
テストと測定部門
音楽における習慣的態度
本と音楽の批評
1929年2月
学校音楽プログラムのためのコミュニティの支援
リズムをみる
自由なコンサートの計画
音楽鑑賞部門
芸術鑑賞を通しての教育
声楽部門
器楽部門
テストと測定部門
インディアンの音楽的才能
本と音楽の批評
1929年3月
教育
オーストラリアの学校音楽
学校音楽プログラムのためのコミュニティの支援

音楽鑑賞部門
教師の鑑賞のトレーニング
声楽部門
少年合唱のメソッドの賛否両論
器楽部門
テストと測定部門
音楽への態度
本と音楽の批評
1929年5月
校長とその学校の音楽プログラム
音楽の創造的な教育
音楽コンテストの根本的な問題

高校の音楽のコース
「リズムをみる」への返答
音楽鑑賞部門
識別の評価
声楽部門
クリーブランドで開催された声楽の問題に関する委員会の会議
器楽部門
テストと測定部門
あなたが考えていること
本と音楽の批評

* 当該雑誌の掲載記事のタイトルをもとに筆者作成

表を考察すると、1922年2月の当該雑誌に「学校のオーケストラ部門」が登場して以来、1922年10月には「器楽部門」、1923年5月には「集団の音楽部門」、1924年10月には「テストと測定部門」、1927年10月には「声楽部門」、1928年12月には「音楽鑑賞部門」が登場した。器楽や歌唱等の分野ごとに継続して記事が掲載されるようになったのである。「部門」の中には、複数の記事が掲載されていた。音楽科成立以前の当該雑誌に比べ、「部門」という形で分野毎の記事が連載されるようになり、各分野の内容が充実したように推察される。

音楽科成立以前の当該雑誌においても、歌唱や器楽に関する内容が掲載記事のタイトルとして扱われたり、全米音楽指導主事大会のディスカッションや講演におけるテーマやトピックとして頻繁に扱われたりしていた。器楽や歌唱に関する記事は、音楽科成立以後も変わらず、継続的に取り扱われている。オーケストラに関するタイトルも多くみられることから、器楽教育の一環としてオーケストラの活動を行うことが、当時のアメリカの音楽教育の中に根付いていたことが推察される。鑑賞に関する記事の数は、器楽や歌唱に関する記事数ほど多くはないが、掲載されている。

一方、「テストと測定部門」に関する記事が頻繁に取り上げられるようになったのは、音楽科成立以後が初めてである。1922年10月から1923年3月にかけて、「教育的測定の性質と機能」というタイトルの記事が連載されており、音楽教育における測定とはどのようなものなのかということが論じられていた。不可視な音楽や音楽教育をどのように測定するのかということ、音楽教師は測定をどのようなものとみなしているのかということなどが実際の学校の様子やデータを基に検討されていた。これらのことから、当時は音楽教育において測定はどのように用いることができるのかということが注目されていたと考えられる。その後の、テストや測定に関する記事のタイトルに着目すると、音楽教育におけるテストや測定の中に科学的な要素を取り入れようとしていた傾向や、テストや測定への批判も寄せられたという傾向がみられる。

また、音楽関係者による記事ではないが、1922年2月より本と音楽の批評というコーナーが設けられ、音楽教育にとって有益な本や楽曲が紹介されるようになった。この他にも、「器楽部門」や「声楽部門」でも、器楽や歌唱の教育に向けて、楽曲や教材やイベントが紹介されるようになった。音楽科成立以後の当該雑誌においては、企業の掲載広告以外の掲載記事においても、音楽教育に有効なアイテムの情報が掲載されるようになったといえる。

その他、歌唱や器楽のコンテストが頻繁に催されていたこと、1925年10月には移動ドと固定ドに関する記事が掲載されたこと、当該雑誌では特別支援に関する記事はほとんど扱われていないが、1928年5月には障害のある子どもへの音楽教育の記事が掲載されていたことが掲載記事のタイトルより明らかになった。

IV おわりに

8年間の当該雑誌に掲載されていた音楽教育に関する記事に着目した結果、音楽科成立以前は教科の内容として歌唱や器楽や鑑賞の学習の充実が図られていた傾向がみられたが、音楽科成立以後のアメリカ合衆国の音楽教育においては、テストや測定に関する記事が頻繁に掲載されていたことが明らかになった。歌唱、器楽、鑑賞の活動がある程度根付いたアメリカ合衆国では、活動に関する記事は勿論、その活動の成果をテスト及び測定することについて論じる傾向にあったと推察される。

今回の研究は、当該雑誌の掲載内容のタイトルの分析にとどめた為、今後は各掲載内容そのものを分析・考察することによって、当時の音楽教育の傾向をより詳細に検討することが必要である。また、当時発行された他の音楽教育関係誌も検討し、本研究との比較を行うことにより、当該雑誌にみられる音楽科成立以前と以後の音楽教育の特徴をより一層明確化したい。

引用・参考文献

- 荒巻治美 (2001) 『アメリカ音楽科教育成立史研究』 風間書房
- Freer, Patrick K. (2015) “Let Us Give the Light to Them”, *Journal of Historical Research in Music Education*
- Tellstrom, Theddore (1971) *Music in American Education : Past and Present*, Holt, Rinehart and Winston = テルス
トロム, セオドア/川島正二訳 (1985) 『アメリカ音楽教育史』 音楽鑑賞教育振興会
- Music Supervisors' National Conference, *Music Supervisors' Journal*, 1921, Vol.VIII, No.1, Music Supervisors'
National Conference
- Music Supervisors' National Conference, *Music Supervisors' Journal*, 1921, Vol.VIII, No.2, Music Supervisors'
National Conference
- Music Supervisors' National Conference, *Music Supervisors' Journal*, 1922, Vol.VIII, No.3, Music Supervisors'
National Conference
- Music Supervisors' National Conference, *Music Supervisors' Journal*, 1922, Vol.VIII, No.4, Music Supervisors'
National Conference
- Music Supervisors' National Conference, *Music Supervisors' Journal*, 1922, Vol.VIII, No.5, Music Supervisors'
National Conference
- Music Supervisors' National Conference, *Music Supervisors' Journal*, 1922, Vol.IX, No.1, Music Supervisors'
National Conference
- Music Supervisors' National Conference, *Music Supervisors' Journal*, 1922, Vol.IX, No.2, Music Supervisors'
National Conference
- Music Supervisors' National Conference, *Music Supervisors' Journal*, 1923, Vol.IX, No.3, Music Supervisors'
National Conference
- Music Supervisors' National Conference, *Music Supervisors' Journal*, 1923, Vol.IX, No.4, Music Supervisors'
National Conference
- Music Supervisors' National Conference, *Music Supervisors' Journal*, 1923, Vol.IX, No.5, Music Supervisors'
National Conference
- Bowen, George Oscar, *Music Supervisors' Journal*, 1923, Vol.X, No.1, Music Supervisors' National Conference
- Bowen, George Oscar, *Music Supervisors' Journal*, 1923, Vol.X, No.2, Music Supervisors' National Conference
- Bowen, George Oscar, *Music Supervisors' Journal*, 1924, Vol.X, No.3, Music Supervisors' National Conference
- Bowen, George Oscar, *Music Supervisors' Journal*, 1924, Vol.X, No.4, Music Supervisors' National Conference
- Bowen, George Oscar, *Music Supervisors' Journal*, 1924, Vol.X, No.5, Music Supervisors' National Conference
- Bowen, George Oscar, *Music Supervisors' Journal*, 1924, Vol.XI, No.1, Music Supervisors' National Conference
- Bowen, George Oscar, *Music Supervisors' Journal*, 1924, Vol.XI, No.2, Music Supervisors' National Conference
- Bowen, George Oscar, *Music Supervisors' Journal*, 1925, Vol.XI, No.3, Music Supervisors' National Conference
- Bowen, George Oscar, *Music Supervisors' Journal*, 1925, Vol.XI, No.4, Music Supervisors' National Conference

Bowen, George Oscar, *Music Supervisors' Journal*, 1925, Vol. XI, No.5, Music Supervisors' National Conference

Bowen, George Oscar, *Music Supervisors' Journal*, 1925, Vol. XII, No.1, Music Supervisors' National Conference

Bowen, George Oscar, *Music Supervisors' Journal*, 1925, Vol. XII, No.2, Music Supervisors' National Conference

Bowen, George Oscar, *Music Supervisors' Journal*, 1926, Vol. XII, No.3, Music Supervisors' National Conference

Bowen, George Oscar, *Music Supervisors' Journal*, 1926, Vol. XII, No.4, Music Supervisors' National Conference

Bowen, George Oscar, *Music Supervisors' Journal*, 1926, Vol. XII, No.5, Music Supervisors' National Conference

Weaver, Paul J., *Music Supervisors' Journal*, 1926, Vol. XIII, No.1, Music Supervisors' National Conference

Weaver, Paul J., *Music Supervisors' Journal*, 1926, Vol. XIII, No.2, Music Supervisors' National Conference

Weaver, Paul J., *Music Supervisors' Journal*, 1927, Vol. XIII, No.3, Music Supervisors' National Conference

Weaver, Paul J., *Music Supervisors' Journal*, 1927, Vol. XIII, No.4, Music Supervisors' National Conference

Weaver, Paul J., *Music Supervisors' Journal*, 1927, Vol. XIII, No.5, Music Supervisors' National Conference

Weaver, Paul J., *Music Supervisors' Journal*, 1927, Vol. XIV, No.1, Music Supervisors' National Conference

Weaver, Paul J., *Music Supervisors' Journal*, 1927, Vol. XIV, No.2, Music Supervisors' National Conference

Weaver, Paul J., *Music Supervisors' Journal*, 1928, Vol. XIV, No.3, Music Supervisors' National Conference

Weaver, Paul J., *Music Supervisors' Journal*, 1928, Vol. XIV, No.4, Music Supervisors' National Conference

Weaver, Paul J., *Music Supervisors' Journal*, 1928, Vol. XIV, No.5, Music Supervisors' National Conference

Weaver, Paul J., *Music Supervisors' Journal*, 1928, Vol. XV, No.1, Music Supervisors' National Conference

Weaver, Paul J., *Music Supervisors' Journal*, 1928, Vol. XV, No.2, Music Supervisors' National Conference

Weaver, Paul J., *Music Supervisors' Journal*, 1929, Vol. XV, No.3, Music Supervisors' National Conference

Weaver, Paul J., *Music Supervisors' Journal*, 1929, Vol. XV, No.4, Music Supervisors' National Conference

Weaver, Paul J., *Music Supervisors' Journal*, 1929, Vol. XV, No.5, Music Supervisors' National Conference

山辺未希 (2018a) 「音楽教育関係誌にみられる音楽科成立以前のアメリカ音楽教育の動向—*Music Supervisors' Bulletin* 及び *Music Supervisors' Journal* に着目して—」音楽学習学会第 14 回研究発表大会発表資料 (2018 年 8 月 26 日)

山辺未希 (2018b) 「音楽科成立以前の音楽指導主事大会にみられるアメリカ音楽教育の動向—*Music Supervisors' Bulletin* 及び *Music Supervisors' Journal* に着目して—」日本教科教育学会第 44 回全国大会発表資料 (2018 年 9 月 9 日)

山辺未希 (2018c) 「音楽教育関係誌にみられる 20 世紀前半のアメリカの音楽教育の動向—*Music Supervisors' Bulletin* 及び *Music Supervisors' Journal* に着目して—」日本音楽教育学会第 49 回岡山大会発表資料 (2018 年 10 月 6 日)